

観点10. 社会連携

10-1. 大学が持っている物的・人的資源を社会に提供する努力がなされていること。

(1) 10-1の事実の説明(現状)

10-1-①大学の施設の開放、公開講座、リフレッシュ教育等、大学が持っている物的・人的資源を社会に提供する努力がなされているか。

本学は、学生や社会人対象の資格講座の推進拠点として、平成15(2003)年4月に「エクステンションセンター」を開設した。同センターは、平成20(2008)年4月に名称を「資格就職・支援センター」、平成21(2009)年4月には学生サービス課(資格・就職支援)と改称し、学内外に対する資格取得の推進を図っている。また、平成20(2008)年度より公開講座を実施し、地域社会との連携を図っている。平成25(2013)年度には本学初の市民公開授業や「関西子どもポエムフェスティバル in 太成学院大学」を開催し、さまざまな年齢層の地域住民との関わりを持つことができた。

ア. オープンカレッジ(市民公開授業・公開講座・資格取得支援プログラム)の開講

本学では、平成15(2003)年4月に開設した「エクステンションセンター」において、学士に付加価値を持たせたいという目的から、資格支援プログラムとして、資格支援特別講座とダブルスクールプログラムを設けている。資格支援特別講座は外部講師を招いて土曜日や長期休暇を利用して開講している。また、ダブルスクールプログラムは国家資格を中心に設定され、ダブルスクールプログラム登録票を提出の上、学外での講座受講または独学により資格取得を目指している。本学の特徴は、一部の就職対策講座を除いて資格支援特別講座、ダブルスクールプログラムとも合格すると単位認定されること、および合格奨励金が授与されることである。それによって受講する学生の動機付けならびに資格取得に対する経済的な支援が行われている。(表10-1-3)また、平成20(2008)年度より資格支援特別講座は学外からの受講者も受け入れている。

公開講座は地域社会との連携を図るために、平成20(2008)年度より実施し、一般の方々にも開放している。これは、本学の教員が講師となり、主に学内で実施している。(表10-1-2)また、平成25(2013)年度にはオープンカレッジとして美原区と本学の共催である市民公開授業「堺学(堺の歴史と文化)」を新たに開催し、これまでの公開講座と資格支援特別講座の一般公開に加え、内容を充実させた。「堺学(堺の歴史と文化)」は人間学部には配当されている授業であり、学生と一般の受講者が一緒に学ぶスタイルで授業が展開された。

表10-1-1 平成25(2013)年度市民公開授業「堺学(堺の歴史と文化)」の概要

開講時期：平成25年9月19日(木)～平成26年1月9日(木)の半年間 15回講義
開講時間：毎週2時限目(10:40～12:10)ただし、フィールドワークは別日程。
講座費用：5,000円(15回分)テキスト代(1,500円程度)・フィールドワーク時の費用は別途必要。
申込期日：平成25年8月30日(金) 定員30名
講義は15回の完結型で開講します。受講出欠票をお渡しし、全15回の講義を

出席された方には本学よりの修了証をお渡しします。

講義内容(シラバスより抜粋)

- 第1講 世界遺産をめざす百舌鳥・古市古墳群と大山古墳(仁徳陵)
- 第2講 泉北丘陵は古代のハイテク須恵器の一大生産地帯
- 第3講 河内鋳物師の活躍
- 第4講 律令国家体制(奈良時代)と堺出身の僧・行基
- 第5講 東南・東アジアの繁栄と堺商人の海外交易の実態
- 第6講 泉南仏国といわれた中世都市堺、千利休の大成させた茶の湯文化とキリスト

教宣教師が見た堺

- 第7講 大坂夏の陣後のみごとな復興計画商工都市
- 第8講 井原西鶴が紹介した江戸時代元禄期の堺、大坂と随分異なった気質はどうして生まれたか

- 第9講 鎖国と大和川の付け替えでも消滅しなかった町と港湾・新地・新田開発
- 第10講 大阪府に併合された堺県の近代教育と産業振興
- 第11講 海浜リゾート都市だった近代の大浜・浜寺と与謝野晶子
- 第12講 臨海工業地帯の造成と泉北ニュータウン建設
- 第13講 周辺町村合併および政令指定都市と現在のまちづくりの課題

第14～15講 ①堺市博物館と堺市役所②みはら歴史博物館と黒姫山古墳などの現地見学授業

(開講期間中の土または日曜日に実施 事前に発表する)

表 10-1-2 平成 25(2013)年度公開講座

講座名	担当	コマ数	参加人数
運動神経！がよくなるトレーニング	本学教員(人間学部)	120分	不開講
心と身体を健康にする”気功”	本学教員(経営学部)	60分	30名
堺の歴史-近代はじめ堺県の大坂府への併合-	兼任講師	120分	17名
思春期・青年期の親子関係を知る	本学教員(人間学部)	120分	3名
ヨーロッパの歴史に見る「怪異」	本学教員(人間学部)	120分	6名
介護に使えるテクニック	本学教員(看護学部)	120分	16名
オトナのころ-中年期のころの危機-	本学教員(人間学部)	120分	5名
はじめてのスポーツテーピング	本学教員(人間学部)	120分	2名
デジカメのデータをパソコンに移す	本学教員(人間学部)	120分	15名
CADを使った授業教材作成	本学教員(経営学部)	150分	10名

太成学院大学

日本の伝統文化を探る-日本刀入門-	本学教員(経営学部)	120分	7名
ボンジョルノ イタリア -教員ローマ暮らし-	本学教員(経営学部)	120分	6名

表 10-1-3 平成 25(2013)年度資格支援プログラム

講座名		開講回数 総時間数	本学受講 料	単位 認定	合格奨励 金	備考
税理士		-	-	-	500,000円	ダブルスクールプログラムにて対応
基本情報技術者		-	-	○	100,000円	ダブルスクールプログラムにて対応
ITパスポート		-	-	○	60,000円	ダブルスクールプログラムにて対応
色彩検定	3級	9回 20時間	25,000円	○	10,000円	
	2級	12回 30時間	30,000円	○	30,000円	
	1級	-	-	○	60,000円	ダブルスクールプログラムにて対応
販売士	3級	12回 30時間	25,000円	○	10,000円	
	2級	14回 35時間	30,000円	○	30,000円	
	1級	-	-	○	60,000円	ダブルスクールプログラムにて対応
福祉住環境コーディネーター	3級	10回 25時間	25,000円	○	10,000円	
	2級	15回 37.5時間	30,000円	○	30,000円	
	1級	-	-	○	60,000円	ダブルスクールプログラムにて対応
日商簿記	3級	15回 37.5時間	25,000円	○	10,000円	
	2級	-	-	○	30,000円	ダブルスクールプログラムにて対応
	1級	-	-	○	60,000円	ダブルスクールプログラムにて対応
TOE I	入	10回 30時間	25,000円	○	別に定め	

C	門 初 級				る	
マイクロ ソフト オフィス スペシャ リスト	Word	7回30時間	25,000円	○	10,000円	
	Excel	7回30時間	25,000円	○	10,000円	
	PowerPoint	6回24時間	25,000円	○	10,000円	
	Access	-	-	○	30,000円	ダブルスクールプログラムにて対応
旅行業務 取扱管理 者	国内	18回38時間	30,000円 +テキスト 代	○	30,000円	
公務員・一 般企業採 用試験対 策		18回45時間	30,000円	-	30,000円	
教員採用 試験対策 (教職教 養、面接対 策)		8回25時間	25,000円	-	-	

イ. 本学及び学外での各教員の生涯学習

1)平成25(2013)年度の学外で本学教員が担当した講座は下記の通りである。

主催	担当教員	講座内容	実施月	参加者数
社団法人日本オストミー協会大阪支部	古川智恵	ストーマケア講習会	2013年4月	100人
大阪府オストミー連合会	古川智恵	ストーマケア講習会	2013年6月	200人
南大阪皮膚排泄ケア研究会	古川智恵	褥瘡対策セミナー	2013年7月	50人
大阪府オストミー連合会	古川智恵	ストーマケア講習会	2013年7月	50人
東大阪褥瘡ケアセミナー	古川智恵	褥瘡ケアセミナー	2013年8月	40人
大阪府オストミー連合会	古川智恵	ストーマケア講習会	2013年9月	80人
南大阪皮膚排泄ケア研究会	古川智恵	褥瘡対策セミナー	2013年9月	40人
南大阪皮膚排泄ケア研究会	古川智恵	ストーマケアセミナー	2013年10月	40人
社団法人日本オストミー協会大阪支部	古川智恵	ストーマケア講習会	2013年10月	40人
大阪府オストミー連合会	古川智恵	ストーマケア講習会	2013年11月	100人

太成学院大学

大阪市立文の里中学校	池辺晴美	スポーツ傷害防止講習会	2013年12月	15人
東北学院大学 ヨーロッパ文化総合研究所	黒川正剛	ヨーロッパ文化総合研究所公開講演会 「ヨーロッパにおける魔女と魔術 -魔女の凶像学」	2013年11月	100人
財団法人成研会附属汐の宮温泉病院	小坂やす子	精神科看護師現任教育治療的にかかわりのできる看護師・看護行為とは ＜援助関係成立の要因＞その1	2013年7月	77人
財団法人成研会附属汐の宮温泉病院	小坂やす子	精神科看護師現任教育治療的にかかわりのできる看護師・看護行為とは ＜援助関係成立の要因＞その2	2013年9月	67人
日本社会医学会総会	原政代	シンポジウム「わが国の健康課題と社会医学の役割」 講演「生活保護被保護者の健康支援活動の方策について」	2013年7月	70人
川崎市健康福祉局	原政代	平成25年度「多職種連携支援における専門職研修」 「多職種で支援するケース対応の基本について～ICFの視点を活かした連携について～」 「生活保護分野における保健師のケース支援について～ICFの具体的活用について～」	2013年8月	35人
(一財)日本規格協会	坂元保秀	品質管理と標準化セミ	2013年9月	37人

		ナー(112QS)実験の計画と解析		
(一財)日本科学技術連盟	坂元保秀	品質管理セミナーベーシックコース(124BC)回帰分析	2013年12月	66人
(一財)日本科学技術連盟	坂元保秀	品質管理セミナーベーシックコース(124BC)QCゲーム	2014年2月	66人
大阪狭山市立南第二小学校	松浦宏之	土曜参観出前講座「アラスカの環境とオーロラ」	2013年11月	50人
平成25年度大阪狭山市社会教育委員会会議	松浦宏之	課題研究会 講演会「アラスカの環境問題」	2014年2月	20人

ウ. 施設の開放

本学が有する清滝スポーツ・ヒルズは、大阪府民の森、緑の文化園(大阪府四條畷市)内にあり、太成学院大学の設置法人である、学校法人天満学園の創立70周年記念教育事業の一つとして設置された。本格的な硬式仕様の野球場やラグビー場、テニスコートなどが併設されており、本学硬式野球部の主たる練習場として使用している他、緑の文化園管理運営協議会のホームページより一般市民が使用申し込みを行うことができる。大学キャンパス内にある足立記念館ホールは608席の劇場スタイルであり、本学の入学宣誓式、学位記授与式、音楽会、講演会などはここで行われる他、一般には地元美原区の成人式やさつき野中学校校内音楽祭等、広く地域に開放している。平成25(2013)年度には初の試みとして、大学構内全体をお祭り広場に見立てて、7月21日(日)に「関西子どもポエムフェスティバル in 太成学院大学」を開催した。絵本作家や詩人の5人の講演者を招いてのポエム講演会の他、地元の子どもたちによるバレエ、ダンス、空手、少林寺拳法、和太鼓演奏などが足立記念館ホールを中心に繰り広げられた。また、市民公開講座の受講者には本学図書館を開放し、学修の便宜を図った。

(a) 清滝スポーツ・ヒルズの概要は次の通りである。

- 野球場(ナイター設備)センター115m・両翼94m 1面
- 天然芝グラウンド(アメリカンフットボール・サッカー・ラグビー兼用) 1面
- テニスコート(全天候型人工芝)12面
- ゲートボールコート(クレイ舗装)1面
- 多目的研究棟
- セミナーハウス
- 駐車場 26台

(2) 10-1の自己評価

本学が有する物的・人的資源を社会に提供することは、開学当初からの課題である。平成15(2003)年4月に開設した「エクステンションセンター」(現「学生サービス課(資格・就職支援)」)は本学学生の資格取得をサポートするために置かれた部署であるが、地域への開放という観点から、平成20(2008)年度より地域住民を対象に資格支援プログラムの受講者受け入れと本学教員による公開講座の企画、実施を行った。本学及び学外で各教員が生涯学習に関する講師を勤めており、公的な団体を含めて繋がりがあることには一定の評価ができる。平成25(2013)年度には、オープンカレッジの11の公開講座にのべ117人の参加があった。前年度は2講座しか開催できなかったことに比べると格段に講座数、受講者数ともに増加した。これは、公開講座をオープンカレッジの一環として位置づけ、市民公開授業と平行して周知できた点が功を奏したと思われる。市民公開授業は美原区と本学の共催であったこともあり、近隣住民を中心に49人の参加があった。本学学生と一般市民が同じ授業を受講するスタイルで行われたが、参加者からは好評であった。しかし、平成25(2013)年度は資格支援プログラムの学外からの受講はなく、より効果的な宣伝方法を模索すべきである。また、7月に実施した「関西子どもポエムフェスティバル in 太成学院大学」では、約700人の参加があり、絵本作家や詩人の5人の講演会には延べ250人を超える参加者があった。

(3) 10-1の改善・向上方策(将来計画)

開かれた大学を目指すためにこれらの講座の開放は、今後も継続される。平成25(2013)年度は、オープンカレッジとして市民公開授業、公開講座、資格支援プログラムの一般公開を行った他、「関西子どもポエムフェスティバル in 太成学院大学」を開催した。これらは市民の方々の多様な学習要求に応えるために、また様々な年齢層の方々と本学の関係を発展させるために、今後も継続して展開される。良質な授業の提供、催しの開催だけでなく、その実施の情報を的確に伝えることも重要である。今回、市民公開授業は美原区と共催し、「関西子どもポエムフェスティバル in 太成学院大学」は堺市、堺市教育委員会、富田林市教育委員会や地元の学校の協力を得たこともあり、本学のホームページでの情報提供だけでなく、さまざまな経路で広報できたと考えられる。今後は公開講座、資格支援プログラムの一般公開も含めて、地域住民を中心に効果的な情報提供を行っていく予定である。

10-2. 教育研究上において、企業や他大学との適切な関係が構築されていること。

(1) 10-2の事実の説明(現状)

10-2-① 教育研究上において、企業や他大学との適切な関係が構築されているか。

平成20(2008)年度の企業、行政及び他大学との関係構築は下記の通りである。

①行政関係

(経済産業省「地域力連携拠点」事業のパートナー機関として参加)

平成22(2010)年度からスタートする経済産業省の施策である「中小企業応援センター」

事業に、大阪府商工会連合会が当事業の採択を受け本学もそのパートナー機関として認定された。それは大阪府商工会連合会の傘下の富田林、柏原、美原、狭山などの商工会及び南河内中小企業支援センターを通じて地域の有力企業と本学がつながり、平成 21 (2009) 年度から産官学連携を推進してきた。

具体的には大阪府商工労働部の経営支援課長、富田林税務署副署長をはじめ、地元の有力企業の経営者が南河内の産業や観光について本学で授業をし、その後学生が会社を訪問しつづさに産業や観光の施設を見学し働く方々の実態を学習する「産業・観光特論」の授業を実施した。

(内閣府「社会的企業人創出・インターンシップ事業」への参加)

平成 23 (2011) 年度の内閣府の施策で全国の若者に社会的企業で挑戦する機会を提供するための「社会的企業人創出・インターンシップ事業」があった。

具体的にはこの施策に参加した全国の 50 近くの大学が参加し 6 週間のインターンシップを正課として実施するものがある。

本学もこの施策の「ソーシャルビジネス人材育成拠点大学」と認定され本年より日本教育開発協会の協力で「ソーシャルビジネス特論」の授業を設け実施した。

この授業には 4 名の学生の履修登録があったが、そのうち 1 名の学生が平成 23 (2011) 年 5 月から 9 月までの土日(全日)の座学とインターンシップ実習を含む 30 日間ハードな授業を無事終了し見事に単位を取得した。

近畿経済産業局がすすめている大学生の就業を促進する施策に「ジョブズスタディ・コラボ・関西」がある。本学でもこのコラボに参加することで、①社会人や会社を知る、②職種や仕事の内容を知ることによって学生の就業力が上がると解釈し 13 時間以上講義及びワークショップに受講した学生には 1 単位の単位を認定することにした。

コラボの内容は 1) イオンや JCB などの有名企業の担当者が仕事の楽しさ、辛さなど本音で語る講演を行い、学生からの質問にパネルディスカッション形式で答える座談会、2) 他大学の学生との交流を通じて、自分の未来と真剣に向かい合うグループワークの 2 つであった。平成 24 (2012) 年 8 月には近畿経済産業局係長に來学頂きこの講座の説明会を開かれた。講義及びワークショップは大阪、神戸、京都などの会場で夕方 7 月から 11 月に渡って行われたが、京大や阪大の他大学の学生が多数にまじわり本学学生もこのコラボに参加した。

経済産業省「平成 25 年度社会人基礎力養成 30 選」に 4 つのプロジェクトを応募したが、採用はされなかった。

②企業関係

(「産業・観光特論」の授業への支援企業と詳細スケジュール)

上記の「産業・観光特論」授業への参加企業は①(株)サンコー(電子部品)、②オーハツ(株)(発電機)、③(株)河内ワイン(観光)、④ニッシン(株)(カーペット)、⑤井上スダレ(株)(スダレ製造)、⑥日本フツソ工業(株)(化学)であり、平成 24 (2012) 年度は下記の通りである。

平成 24 (2012) 年度「産業・観光特論」授業実施概要

2. 決定スケジュール

講義時間 5 時限 16 時 20 分～17 時 50 分

回数	講義・見学等及び内容	担当講師	場所
----	------------	------	----

太成学院大学

1	4/9(月)	南大阪の産業	釣島平三郎 教授	本学
2	4/16(月)	租税について 講義	富田林税務署	本学
3	4/23(月)	地域観光1. 講義	(株)サンコー 社長 向井正明	本学
4	5/7(月)	地域観光1. 見学	(株)サンコー 社長 向井正明	工場
5	5/14(月)	地域産業1. 講義	オーハツ(株) 社長 芝谷康二	本学
6	5/21(月)	地域産業1. 見学	オーハツ(株) 社長 芝谷康二	工場
7	5/28(月)	地域観光2. 講義	(株)河内ワイン 専務 金銅真代	本学
8	6/4(月)	地域観光2. 見学	(株)河内ワイン 専務 金銅真代	工場
9	6/11(月)	地域産業3. 講義	ニッシン(株) 田中弘之 社長	本学
10	6/18(月)	地域産業3. 見学	ニッシン((株) 田中弘之 社長	工場
11	6/25(月)	地域産業2. 講義	井上スダレ(株) 並河大介	本学
12	7/2(月)	地域産業2. 見学	井上スダレ(株) 並河大介	工場
13	7/9(月)	地域産業3. 講義	日本フッ素工業(株) 代表取締役 豊岡 敬氏	工場
14	7/16(祝)	. 伊勢観光 講義	関戸恒昭 教授	本学
15	7/23(月)	地域産業3 見学	日本フッ素工業(株) 代表取締役 豊岡 敬氏	工場
	7/30(月)	テスト	釣島平三郎 教授	本学

平成25年度の授業には井上スダレに代えて堺市みはら歴史博物館をお願いした。

2013年(平成25年度) 産業・観光特論授業実施概要

. 決定スケジュール

講義時間5時限 16時20分～17時50分

回数	講義・見学等及び内容	担当講師	場所	
1	4/8(月)	南大阪の産業	釣島平三郎 教授	本学
2	4/15(月)	租税について 講義	富田林税務署	本学

太成学院大学

3	4/22(月)	地域産業1. 見学	(株)サンコー 社長 向井正明	工場
4	4/29(祝)	地域産業1. 講義	(株)サンコー 社長 向井正明	本学
5	5/13(月)	地域産業2. 講義	オーハツ(株) 社長 芝谷康二	本学
6	5/20(月)	地域産業2. 見学	オーハツ(株) 社長 芝谷康二	工場
7	5/27(月)	地域観光1. 講義	(株)河内ワイン 専務 金銅真代	本学
8	6/3(月)	地域観光1. 見学	(株)河内ワイン 専務 金銅真代	工場
9	6/10(月)	地域産業3. 講義	ニッシン(株) 田中弘之 社長	本学
10	6/17(月)	地域産業3. 見学	ニッシン((株) 田中弘之 社長	工場
11	6/24(月)	地域産業4. 講義	日本フッ素工業(株) 代表取締役 豊岡 敬	本学
12	7/1(月)	地域産業4. 見学	日本フッ素工業(株) 代表取締役 豊岡 敬氏	工場
13	7/8(月)	地域観光2. 講義	堺市みはら歴史博物館 井溪明 館長代理	本学
14	7/15(祝)	地域観光2 見学	堺市みはら歴史博物館 井溪明 館長代理	博物館
15	7/22(月)	全体講義 伊勢観光	関戸恒昭 教授	本学
	7/29(月)	テスト	釣 島 平三郎 教授	本学

(企業へのインターンシップ)

本学では毎年企業と提携し、夏期休暇に学生を約1~2週間インターンシップに派遣しているが、平成21(2009)年度のインターン実施企業は下記の企業である。①(社)三秀会、②京阪百貨店、③(株)シナス、④(社)新潟県経営者協会、⑤フレンドリー、⑥泉佐野市公園緑化協会、⑦ホテルアウテナ大阪である。この制度は平成20年(2008)に施行し実施は平成21年から初年度実績は6人の履修生があり7社に派遣をした。平成22年(2010)度のインターン先は①浜寺公園プール、②島田フットボールクラブ、③Orange County Café、④和食厨房はんなり、⑤串家物語千日前店、⑥一光である。この実習先の企業は大阪府雇用開

発協会等の支援団体の協力と本学が開拓をしたものである。多くの学生に実社会の体験をさせ在学中から職業観や働く意識を養うことを意識づけた。平成 24(2012)年度のインターン実施企業は無かった。平成 25(2013)年度もインターン実施企業は無かった。

(インターンシップ(コーオブ)実習)

実社会での就労体験を授業科目として単位認定する制度である。実社会での活動を通じて、大学で学ぶ専門的な知識や技術がどのように活用しているのか、どのように活用すべきか等を修得することを目的としている。実習先では社会人に求められる能力やマナー等に関する知識を修得して、将来の進路に繋げる役目を果たしている。平成 22(2010)年度実績は 6 人が各企業で実働時間 45~95 時間の実習を 6 社に派遣を行ったが、平成 23(2011)年度の実習者はなかった。平成 24(2012)年度実績は 1 人が企業で実働時間 48 時間の実習を 1 社に派遣を行った。平成 25(2013)年度はインターンシップに参加した学生はいなかった。

③大学関係

(その他)

大学コンソーシアム大阪には平成 20(2008)年まで加盟していた。また本学教員 5 人が南大阪コンソーシアムに個人会員として参加し、各種委員会などで他大学と交流している。また本学教員は他大学の依頼で担当教員が他大学での講演など交流している。また「大阪府下大学就職問題連絡協議会」に参加した大学と就職に関して情報交換している。現在「大阪大学コンソーシアム」に加入を検討中である。

(2) 10-2の自己評価

「産業・観光特論」の授業に関して、産(大阪府商工会連合会、各種の南河内の支援企業)、官(経済産業省、大阪府)学(本学)との連携を図り、関係行政機関や各企業の支援を受けて平成 21(2009)年度よりスタートでき学生も 184 人もの登録があったが平成 24(2012)年には約 35 名に減少したことは残念だ。評価できる。授業内容も、地元の有力企業のトップの話が聞けて、実際の工場や施設を見学できたことは学生には大きな刺激となったとレポートしていた。新しい授業として「ジョブズスタディ・コラボ・関西」への参加は評価できる。「産業・観光特論」の受講者が 65 名に回復したことはよかった。

「ボランティア実習」「インターンシップ」は本学、学生並びに企業との関係を堅持しながら本学と企業の適切な関係の中で学生は大学で学ぶ理論と実際を通じて比較が出来、キャンパスで経験・学ぶことが出来ない経験が得られ、学生は貴重な体験と大きな効果があった。しかし平成 24(2012)年度「ボランティア実習」「インターンシップ」の履修学生減少したことは残念だ。平成 25(2013)年度の「ボランティア実習」「インターンシップ」の履修学生がいなかったことは誠に残念だ。

(3) 10-2の改善と向上方策

「産業・観光特論」についてはプログラムはスタートしたばかりで、運営にまだ不慣れな所があった。またプログラムの内容も反省点を踏まえて、平成 25(2013)年度から支援企業の入替えを行うことを秋学期までに運営会議、教学会議・教授会で検討する。

インターンシップ等については、協力団体や企業との関係では、教育を中心に学生サービス課において連携して情報交換を積極的に行い、内容をより充実させることにより、協力関係を強力的に展開することを継続して検討していく。今後も多くの学生がインターンシップに参加意欲の高揚対策として目的や活動内容について周知徹底した指導と広報活動を行い、本学の就業体験の授業科目として定着を図り、その体験を反映して社会人としての人材育成に繋げることを目指していく。インターンシップなどの学生を増やすために、平成 26(2014)年より新たに支援する職員体制を見直し補強する予定である。

10-3. 大学と地域社会の協力関係が構築されていること

(1) 10-3の事実の説明(現状)

①地元小学校での科学体験授業「ミクロの世界をさぐろう」の実施

地元の堺市立美原西小学校が文部科学省の「科学技術・理科教育推進モデル事業」に平成 15(2003)年度から指定校に認定されたことに呼応して、平成 17(2005)年度より本学の尾上教授以下数名の教員と学生の支援をえて電子顕微鏡などを使用して毎年「ミクロの世界をさぐろう」をテーマに地元小学校で科学体験授業を実施してきた。

平成 23(2011)年度に同校を訪問し実施したプログラムを実施した。

日時	授業のテーマ	本学担当	参加児童
2012/2/21 (平成 24)	電子顕微鏡体験習 手作り顕微鏡体験習 体育	尾上教授 尾上教授 高山講師	1年(22), 3年(24) 4年(23) 3年(24), 4年(46)
2012/2/22 (平成 24)	電子顕微鏡体験習 手作り顕微鏡体験習 体育	尾上教授 尾上教授 高山講師	5年(34) 2年(22) 2年(46), 3年(24)
2012/2/23 (平成 24)	だまし絵体験学習	鈴木准教授	5年(34人)、
2012/2/24 (平成 24)	手作り顕微鏡体験習 電子顕微鏡体験習 だまし絵体験学習	尾上教授 尾上教授 鈴木准教授	4年(23), 2年(24), 3年(24), 1年(23) 6年(44),
2013/1/29 (平成 25)	電子顕微鏡体験習 だまし絵 気象 体育	尾上教授 鈴木教授 竹原教授 村田教授 高山講師	3年(24), 3年(22) 3年(24), 3年(22) 3年(24), 3年(22) 3年(24), 3年(22)
2014/2/28 (平成 26)	電子顕微鏡体験習 だまし絵体験学習 体育	尾上教授 鈴木教授 高山講師	3年(21)
2014/2/28	看護体験	高木、戸田	3年(21)

(平成 26)			
------------	--	--	--

②親子体験学習「ミクロの生物観察会」に協賛

毎年日本電子(株)主催で、親子を昆虫や植物を電子顕微鏡で観察させミクロ世界にいざなう体験学習を実施してきた。平成 21(2009)年まで 18 回実施してきたが、本学は毎年このイベントに協賛し尾上教授などが参加している。

平成 24(2012)年度は第 23 回ミクロ生物観察会を 8 月 5 日(日)に日立ハイテクノロジーセンター(児童・生徒参加 28 名)、第 24 回ミクロ生物観察会を 12 月 2 日(日)に日本電子関西応用研究センター(児童・生徒 29 名参加)で実施した。

平成 25(2013)年度は第 25 回ミクロ生物観察会を 8 月 4(日)に日本ソリューションセンター(児童 36)、第 26 回ミクロ生物観察会を平成 26 年 1 月 11 日(土)日立ハイテクノロジーセンター(児童・生徒参加 22 名)で実施した。

③地域住民向けの相談会「区民協働窓口『なんでも相談いらっしゃ〜い』」に相談員として参加

この相談会は、地域住民が区役所等でたらいまわしにならず、できるだけワンストップのサービスが行えるよう、生野区地域福祉アクションプラン推進委員会が主体となり、大阪市生野区役にて平成19(2007)年5月より毎月第4水曜日に行っており、文講師が相談員として参加してた。相談内容は、財産・相続、近隣トラブル、生活環境、福祉制度などの多岐にわたるものであり、地域住民の相談に対し真摯に対応した。

④地元の企業との連携

10-2 で述べた本学の授業「産業・観光特論」の実施に際しては、地元の企業日本フッソ(株)(堺市美原区)など工場見学など 5 社の協力を得て実施した。平成 25(2013)年度も前述のように工場見学を 5 社の協力を得て実施した。

⑤高大連携

本学では、平成 16(2004)年度から、「インターンシップ(高校)」という科目名で「情報教育」に特化し、高等学校に情報教育のアシスタントとして学生を派遣、好評であった。平成 21(2009)年度には、「高大連携情報教育主担」を設け、経営学部の教員の 1 人が中心になって学生を指導した。この高大連携の目的は本学の教育研究の成果を積極的に高等学校に提供することにより社会貢献に寄与し、また受講者に大学の講義内容に興味を持たせることにより、大学で学ぶモチベーションを喚起することである。従来、本学では情報教育だけで高等学校と連携していたわけではなく、ほかにも高等学校等の要望にこたえる形で、「模擬授業」(進学への動機づけ等を目的として高校内で実施する進学説明会での学科内容説明のためのものを含む)を実施してきたので、平成 22(2010)年度からは「高大連携情報教育主担」を発展解消させ新しく学部ごとに「高大連携主担」を設け、これらを総合的に検討実施していく体制を整えた。

年2回実施している入試説明会においても本学の高大連携として提供できるテーマを、資料と

して配布しているほか、高等学校への訪問時にも持参し、近隣の高等学校に高大連携の模擬授業を紹介をしている。今後も「高大連携」をテーマとして、本学が提供できるものを積極的に高等学校へ提供していき、社会貢献に寄与していきたい。平成 24(2012)年度、平成 25(2013)年度の実績は下記の通りである。

平成 24 年度 高大連携講義

講義概要 教員名	高校名	場所/日時	参加人数 (名)
「テーピングを学ぼう」 池辺先生	星翔 高校 3 年生	本学 M301 4/12(木)	37 名
「起業家の群像」 釣島先生 「スラムダンク論」 高橋先生 「1. 海外研修から感じた異文化体験報告 2. 日本の観光地紹介(まつりと建築を通じて) 3. iPod touch を活用した授業」 猪池先生 「イリュージョン ワールド」 鈴木先生	太成学院 大学 高校 3 年生	太成学院 大学高校 4/28(土)	3 組 35 名 4 組 32 名 5 組 35 名 6 組 36 名
「起業家の群像」 釣島先生 「スラムダンク論」 高橋先生 「1. 海外研修から感じた異文化体験報告 2. 日本の観光地紹介(まつりと建築を通じて) 3. iPod touch を活用した授業」 猪池先生 「イリュージョン ワールド」 鈴木先生	太成学院 大学 高校 3 年生	太成学院 大学高校 5/12(土)	3 組 35 名 4 組 32 名 5 組 35 名 6 組 36 名
「起業家の群像」 釣島先生 「スラムダンク論」 高橋先生 「1. 海外研修から感じた異文化体験報告 2. 日本の観光地紹介(まつりと建築を通じて) 3. iPod touch を活用した授業」 猪池先生 「イリュージョン ワールド」 鈴木先生	太成学院 大学高校 3 年生	太成学院 大学高校 5/19(土)	3 組 35 名 4 組 32 名 5 組 35 名 6 組 36 名

太成学院大学

<p>「起業家の群像」 釣島先生 「スラムダンク論」 高橋先生 「1. 海外研修から感じた異文化体験報告 2. 日本の観光地紹介(まつりと建築を通じて) 3. iPod touch を活用した授業」 猪池先生 「イリュージョン ワールド」 鈴木先生</p>	<p>太成学院 大学高校 3年生</p>	<p>太成学院 大学高校 6/2(土)</p>	<p>3組 35名 4組 32名 5組 35名 6組 36名</p>
<p>「体のしくみと看護」 勝丸先生</p>	<p>和歌山高校 2年生</p>	<p>本学 N504 教室 6/6(水)</p>	<p>生徒 24名 先生 2名</p>
<p>「起業家の群像」 釣島先生 「スラムダンク論」 高橋先生 「1. 海外研修から感じた異文化体験報告 2. 日本の観光地紹介(まつりと建築を通じて) 3. iPod touch を活用した授業」 猪池先生 「イリュージョン ワールド」 鈴木先生</p>	<p>太成学院 大学高校 3年生</p>	<p>太成学院 大学高校 6/9(土)</p>	<p>3組 35名 4組 32名 5組 35名 6組 36名</p>
<p>「起業家の群像」 釣島先生 「スラムダンク論」 高橋先生 「1. 海外研修から感じた異文化体験報告 2. 日本の観光地紹介(まつりと建築を通じて) 3. iPod touch を活用した授業」 猪池先生 「イリュージョン ワールド」 鈴木先生</p>	<p>太成学院 大学高校 3年生</p>	<p>太成学院 大学高校 6/16(土)</p>	<p>3組 35名 4組 32名 5組 35名 6組 36名</p>
<p>「記憶力を鍛えるには？」 馬場先生 「レクダンス」 高山先生 「TEG II 「心の中をのぞいてみよう」 小高先生 「大学で何を学ぶのか？主体性について考える」 村本先生 「お酒をやめられないのは病気ですか？」松井先生</p>	<p>太成学院 大学高校 3年生</p>	<p>本学 E 201 M301 M302, M303 E 202 E 203 教室 6/23(土)</p>	<p>生徒 132名 先生 6名</p>
<p>「起業家の群像」 釣島先生 「スラムダンク論」 高橋先生 「1. 海外研修から感じた異文化体験報告 2. 日本の観光地紹介(まつりと建築を通じて) 3. iPod touch を活用した授業」 猪池先生 「イリュージョン ワールド」 鈴木先生</p>	<p>太成学院 大学高校 3年生</p>	<p>太成学院 大学高校 6/30(土)</p>	<p>3組 35名 4組 32名 5組 35名 6組 36名</p>
<p>「眠りと目覚めを科学する」 吉岡先生</p>	<p>昇陽 高校 1年生</p>	<p>昇陽高校 9/7(金)</p>	<p>生徒 42名</p>

太成学院大学

「起業家の群像」 釣島先生 「スラムダンク論」 高橋先生 「英語と日本語のメタファー」 金杉先生 「イリュージョン ワールド」 鈴木先生	太成学院 大学高校 3年生	太成学院 大学高校 9/8(土)	3組 35名 4組 32名 5組 35名 6組 36名
「イメージ辞典を創ろう」 佐々木先生	貝塚 高校 1年生	貝塚高校 9/13(木)	生徒7名
「英語の歴史」 金杉先生 「スラムダンク論」 高橋先生 「1. 海外研修から感じた異文化体験報告 2. 日本の観光地紹介(まつりと建築を通じて) 3. iPod touch を活用した授業」 猪池先生 「イリュージョン ワールド」 鈴木先生	太成学院 大学高校 3年生	太成学院 大学高校 9/15(土)	3組 35名 4組 32名 5組 35名 6組 36名
「ジャンケンはいつ頃からできるようになるの？」 林先生	精華 高校 2年生	精華高校 11/7(水)	生徒7名
「起業家の群像」 釣島先生 「スラムダンク論」 高橋先生 「1. 海外研修から感じた異文化体験報告 2. 日本の観光地紹介(まつりと建築を通じて) 3. iPod touch を活用した授業」 猪池先生 「イリュージョン ワールド」 鈴木先生	太成学院 大学高校 3年生	太成学院 大学高校 11/10(土)	3組 35名 4組 32名 5組 35名 6組 36名
「3D イリュージョン」 鈴木先生	大阪市立中央 高校 1・2年生	大阪市立 中央高校 11/15(木)	生徒47名
「起業家の群像」 釣島先生 「スラムダンク論」 高橋先生 「1. 海外研修から感じた異文化体験報告 2. 日本の観光地紹介(まつりと建築を通じて) 3. iPod touch を活用した授業」 猪池先生 「イリュージョン ワールド」 鈴木先生	太成学院 大学高校 3年生	太成学院 大学高校 11/17(土)	3組 35名 4組 32名 5組 35名 6組 36名
「モーション・イリュージョン」 鈴木先生 「スポーツの裏側」 長谷川先生	懐風館高校 1・2年生	懐風館高校 11/22(木)	生徒42名
「起業家の群像」 釣島先生 「スラムダンク論」 高橋先生 「1. 海外研修から感じた異文化体験報告 2. 日本の観光地紹介(まつりと建築を通じて) 3. iPod touch を活用した授業」 猪池先生 「イリュージョン ワールド」 鈴木先生	太成学院 大学高校 3年生	太成学院 大学高校 11/24(土)	3組 35名 4組 32名 5組 35名 6組 36名

太成学院大学

「体のしくみと看護」 勝丸先生	かわち野高校 2年生	本学 12/12(水)	生徒 10 名 先生 1 名
「体の柔らかさを知る」 池辺先生	みどり清朋高校 1年生	みどり清朋高校 1/24(木)	生徒 48 名
人間心理応用学科説明 鈴木先生	大阪女子高校 2年生	大阪女子 高校 2/2(土)	生徒 9 名
「心を探検しよう」 小高先生	和歌山県立 和歌山北高校 1年生	和歌山北 高校 2/7(木)	生徒 38 名

平成 25 年度 高大連携講義

講義概要 教員名	高校名	場所/日時	参加人数
「起業家の群像」 釣島先生 「スラムダンク論」 高橋先生 「イメージ辞典を創ろう」 佐々木先生 「イリュージョン ワールド」 鈴木先生	太成学院 大学高校 3年生	太成学院 大学高校 4/27(土)	各組 38 名 ×4
「起業家の群像」 釣島先生 「スラムダンク論」 高橋先生 「イメージ辞典を創ろう」 佐々木先生 「イリュージョン ワールド」 鈴木先生	太成学院 大学高校 3年生	太成学院 大学高校 5/11(土)	各組 38 名 ×4
「起業家の群像」 釣島先生 「スラムダンク論」 高橋先生 「イメージ辞典を創ろう」 佐々木先生 「イリュージョン ワールド」 鈴木先生	太成学院 大学高校 3年生	太成学院 大学高校 6/1(土)	各組 38 名 ×4
「起業家の群像」 釣島先生 「スラムダンク論」 高橋先生 「イメージ辞典を創ろう」 佐々木先生 「イリュージョン ワールド」 鈴木先生	太成学院 大学高校 3年生	太成学院 大学高校 6/29(土)	各組 38 名 ×4
「テーピングを学ぼう」 池辺先生	大正高校 2年生	本学 9/27(金)	生徒 31 名 教員 4 名
「3D イリュージョン」 鈴木先生	泉大津高校 2年生	泉大津高校 10/3(木)	生徒 16 名
「スポーツを考える」 長谷川先生	桜宮高校 2年生	桜宮高校 11/11(月)	生徒 14 名
「自分の心理的競技能力を知ろう」 高山先生	PL 学園高校 2年生	PL 学園高校 11/12(火)	生徒 10 名

《看護・医療研究会》 三宅先生	大阪府立 東百舌鳥 高校 2年生	大阪府立 東百舌鳥 高校 11/12(火)	生徒 32 名
《進学ガイダンス》 心理分野 鈴木先生	大阪商業 大学堺高校 2年生	大阪商業 大学堺高校 11/21(木)	生徒 22 名
「テーピングを学ぼう」 池辺先生 「記憶のしくみを考えよう」 杉山先生	懐風館高校 2年生	懐風館高校 11/28(木)	生徒 10 名 生徒 10 名
「イメージ辞典を創ろう！」 佐々木先生	大阪府立 長野北高校 2年生	大阪府立 長野北高校 11/28(木)	生徒 5 名
「大学で何を学ぶか: 主体性を考える」 村先生	和歌山県立 笠田高校 1・2年生	和歌山県立 笠田高校 12/13(金)	生徒 26 名
《進学ガイダンス》 心理分野ディスカッション・他 鈴木先生	大阪府立 堺東高校 2年生	大阪府立 堺東高校 1/16(木)	生徒 34 名
「スポーツを考える」 長谷川先生	奈良県立 大和広陵 高校 2年生	本学 1/30(木)	生徒 7 名 教員 1 名

⑥堺学の開講

堺市美原区と提携し平成24(2012)年度の秋学期より、元堺市博物館副館長の中井正弘講師による「堺学」を人間学部で開講した。平成25(2013)年度は堺学を一般市民に公開し、その受講者には大学図書館も開放した。この授業は美原区との共催で宮田美原区長も一部授業を受講してくれた。

(2) 10-3の自己評価

地元の小学校と連携し長年科学体験授業を実施できたことは本学が電子顕微鏡を保有していることによるユニークな地域への貢献として評価できる。また親子体験学習「ミクロの生物観察会」への協賛の実施なども一つの地域への貢献として評価できる。高大連携も平成22(2010)年度より正式にスタートしたが年々充実していることが評価される。しかし本学の地元での知名度の浸透や、本学の施設の地元への貸し出しは量的にまだ不十分な面がある。平成25(2013)年度は子どもフェスティバルなどで地域住民に施設を開放したり、同イベントには700名もの地域住民が参加してくれたことは大きな前進である。

(3) 10-3の改善と向上方策

少子化に伴い大学入学者数の減少による大学の運営が厳しくなっている事実を反映して、これからの大学運営はいかに大学が地元に着地できるかが大きなポイントのひとつとなってきた、そのような意味からも、本学の地域連携の試みを量的、質的に今後拡大してゆく方法、又特に本学の施設の貸し出しや開放の実績も、適切な広報活動を通じて今後もう少し拡大してゆく方法等を継続して審議・検討する。今後地元の堺市美原区などとの提携が模索される。美原区や堺市との連携を深め地域共催の事業などを推進してゆきたい。

【観点10の自己評価】

本学の地域などの社会との連携に関しては、公開講座、施設の開放、地域の協力を得た取り組みなどを実施しており、概ね適正に行っている。また学内ではエクステンションセンター(現資格就職支援センター)は公開講座に企画や受け入れを行っている。特に、大阪府商工会連合会の支援を得て、特別の授業を行ったり、企業ともインターンシップ(企業)(コーオプ)などを通じて連携していることは評価できる。また内閣府の「会的・インターンシップ事業」への参加も評価できる。

堺学の新しい開講は新しい官学連携として評価できる。平成25年度：・関西子どもポエムフェスティバル(平成25年7月21日(日)実施)後援：堺市・堺市教育委員会、協賛：フルタ製菓株式会社、オープンカレッジの企画から実施(8月～10月実施)公開講座11開講(後援：堺市・堺市教育委員会)、市民公開授業1開講(共催：堺市美原区)公開講座受講者数117名、市民公開授業「堺学(堺の文化と歴史)」受講者数49名。太成学院大学OB市川哲也氏講演・サイン会の企画から実施(11月22日)。鮎川哲也賞受賞記念講演。人間学部1年～4年生聴講のイベントなど平成25(2013)年度は活発に活動できた。

【観点10の改善・向上方策(将来計画)】

公開講座に関してはまだ受講者が少ないので、地域での公開講座の広報を強化し参加者を増やし、内容を充実させる。またイベント情報を、学内に学内報などを通じてもっと関係者に伝えていく。施設の開放も利用者がまだ少なく、これから地域の人々や学園の付属校を含めて、もう少しPRの内容を検討する。さらに、本学の施設の貸し出しや開放の実績を適切な広報活動を通じて今後もっと拡大してゆくことも検討していく。これらのことは継続的に運営会議や教学会議・教授会で審議・検討していく。今後の美原区との連携を模索する。堺市との地域連携協定の締結を視野に積極的に社会連携を推進してゆく。